

# さくらき 「桜の樹」

ニュースレタ- vol.49

岡倉天心記念  
がん哲学外来  
巣鴨カフェ  
「桜」

キャンサーフォーラムに参加して ニャンコ先生

8月の2日(土)、3日(日)国立がん研究センター築地キャンパス研究棟にて「キャンサーフォーラム」が開催され、私は2日(土)に参加しました。セミナーは3会場で開催され私は「すい臓がん」と「がん免疫治療の最新研究紹介」を受講しました。「すい臓がん」については内科、外科の先生が、診断、治療も進歩していることを講演され、妻が罹患した7年前と違う感じました。ただ今年3月に新聞に掲載された胃の内視鏡検査の際同時にすい臓も検査できる方法が確立されて早期発見できるようになればとも思いました。

「免疫治療」はがん治療の三大治療(手術、放射線、抗がん剤)に次ぎ期待される4番目の治療法です。がんに対するいくつかの免疫細胞、それぞれの役割がわかつてきました。治療法の一つは罹患者の血液を採取、免疫細胞を増やし活性化し、戻すことになります。講演の内容は活性化したはずの免疫細胞がなぜか、不活性化してしまう研究についてでした。一つは抗生素を使用している時です。また一つは腸内細菌によるものだそうです。腸内細菌といつても食文化の違い、その中でも個人で違い、どちらもまだ特定できないそうです。がんの元になる細胞のコピーミスは日々起き、免疫細胞が排除してくれるわけですが、それをすり抜け(確率論から言えば限りなく0に近い)、条件によりがんに成長するそうですが、免疫治療により治癒できればと思いました。

また、会場では20を超えるブースが開設され、「がん哲学外来カフェ」も参加(2日のみ)しました。樋野先生は奥様のアメリカ里帰りから単身帰国し、午前中の大学での講義後、見え、ミニ面談等終わりまで参加されました。私の名前がわかる方では「がん防災マニュアル」の宮崎県善仁会病院の押川勝太郎先生・石川県芳珠記念病院の青島敬二先生が参加されました。

がんはおそろしい病気です。フォーラムはたくさんの方が参加され、戦っている方の応援団のような気がしました。



2025.9

## アンパンマンの詩

岡ちゃん

術後の抗がん剤治療の副作用で味覚障害になっていた頃、1人で外出する体力と気力に自信がなく、自宅にこもっていました。その頃の思い出の詩が、テレビアニメ「それいけ アンパンマン」のオープニング主題歌、「アンパンマンのマーチ」です。その一言一句は弱った私の心と身体に響く叙情詩でした。見返りを求めるアンパンマンの生き方、示し方に感動しました。一つの詩として歌詞を読んで頂きたく紹介致します。

アンパンマンのマーチ

作詞 やなせたかし

作曲 三木たかし

そうだ うれしいんだ 生きるよろこび  
たとえ胸の傷がいたんでも  
なんのために生まれて なにをして生きるのか  
こたえられないなんて そんなのはいやだ！  
今を生きる事で 熱いこころ燃える  
だから君は いくんだほほえんで  
そううれしいんだ 生きるよろこび たとえ 胸の傷が  
いたんでも ああアンパンマンやさしい君は  
いけ！ みんなの夢まもるため  
  
なにが君のしあわせ なにをしてよろこぶ  
わからないままおわる そんなのはいやだ！  
忘れないで夢を こぼさないで涙  
だから君はとぶんだ どこまでも  
そうだおそれないで みんなのために  
愛と勇気だけがともだちさ ああアンパンマンやさしい君は  
いけ！ みんなの夢まもるため 時は早くすぎる  
光る星は消える だから君はいくんだ ほほえんで  
そううれしいんだ 生きるよろこび  
たとえどんな敵があいてでも ああアンパンマンやさしい君は  
いけ！ みんなの夢まもるため

人生の節目を迎えたとき、諦めずに生きることが伝わる詩であると思いました。



岡倉天心記念がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」  
[sugamocafe.sakura@gmail.com](mailto:sugamocafe.sakura@gmail.com)  
<https://sugamo-sakura.com/>

後援：一般社団法人がん哲学外来  
がん哲学外来市民学会

代表 西原光治  
編集 浦川慶子